

時が全て消し去る

存在した足跡は  
生きたこともあつたことも  
何故かを 知ることもなく  
全てが 消えて存在がない

全てが 生きたことあつたこと  
何故かを知ることもなく  
消えて 無くなる

永遠なる 持続は許されず  
ただただ 今だけが 永続する  
絶えず 今だけが 現れ  
今だけが 在り続ける

2019/ End Road-16

悲しみに影が寄り添う

影に寄り添われて  
暗闇の漂いの中を  
路を月が照らしている

道化のように 街灯に  
影が左右に戯れおどけ  
寂しさを暗闇へ消そうと

歩きの吸う息を  
歩きの吐く息を  
影が優しく抱いている

星々の響きを  
月が地上へと照らし  
輝きを煌めかせ

時が全てを消して  
歩きの路先が  
永久の中へと見えない

2019/ End Road-15

朝日に輝る路

Chore's(vocall)  
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi  
dona eis requiem. sempiternam.

小鳥の声が朝の気を割き  
そよ風に木の葉が揺れ

眩い光が射し込んで  
私の歩く先の道

.....この道を歩き続け  
始めと終わりのある道を  
時の過ぎる中で  
まだ終わりは見えない

.....この時に現れ  
この時を歩き続け  
愛と悲しみと寂しさを  
歩きはこの時へと消える

Sol's(vocall)  
You,.....let me die?  
let me die?  
In.....on this road!

2019/ End Road-14

暗闇の路

北風が走り吹き去り  
月の明かりに  
落ち葉が音をたてながら  
風の路を空けている

星々の瞬きが  
七十幾何年も歩き続けている  
私を慰めている  
生命の息吹を癒している

私も同じだと 言っている  
それでも生きる！  
無言で生きの輝きを  
消えるまで灯して

2019 / End Road-13